

第3回 草津市南草津エリアまちづくり推進懇話会での意見および対応

〔南草津エリアのコンセプト案について〕

発言者	意見（要旨）	回答	ビジョンへの反映案
1-1 B 委員	「目標① 地域活力が持続的にあふれ るまち」という表現では、主体的でない イメージがあり、「あふれだす」という 表現の方が良い。	—	【P14 目標①】 ◇「 <u>地域活力</u> が持続的にあ ふれ <u>るまち</u> 」を「 <u>大学・企 業・地域の活力</u> が持続的 に <u>あふれだすまち</u> 」に修正 しました。
1-2 B 委員	草津市のように大学生や働き盛りの世 代を中心に若い活力を期待できるまちは 全国でも希少であると思うので、そこ を南草津エリアの魅力として目標に出 せれば良い。	—	
2-1 B 委員	「目標② 誰もが安心・安全に住み続 けられるまち」という表現を、「障がいや 病気をもちながらも安全に」という表 現に変えてはどうか。	◇南草津エリアに関わる全て の方もしくはお住いの方とい う表現に修正する。	【P15 目標②】 ◇「誰もが <u>安心・安全</u> に住み 続けられるまち」を「誰もが <u>豊かな環境と利便性を享 受し安全・安心</u> に住み続 けられるまち」に修正しまし た。 ◇説明文中の「 <u>子どもから高 齢者まで</u> 」を「 <u>南草津エリ アに住まう誰もが</u> 」に修正 しました。 ◇説明文中に「 <u>防災対策の 充実などにより</u> 」を追加し ました。
2-2 座長	目標②の具体説明に「子どもから高齢 者まで」という文章があるが、他のタイ プの人はどうなるのかということになら ないか。		
2-3 C 委員	当エリアは、防災マップを見ると川が氾 濫する危険があるということが書いてあ る。十分に行き届いた防災対策はまだ できていないため、大きなところから防 災を考える必要がある。 非常に大きなことなので、お金もかかり 草津市だけではできない問題だが、地 域全体に関わることであるため、順番 を決めて対策を打っていくという姿勢が 必要。	◇基本方針③に「防災対策に 継続的に取り組みます。」と 書いているが、表現が弱い ようであればもう少し強調し て書きたい。	
3-1 E 委員	まちに眠っている魅力あるものを鉄道 でつないで交流を生んでいこうと考えて いるので、ぜひ南草津エリアも鉄道でつ ないで将来発展するようなエリアにな れば良いと思う。その上でPRしていく際 には、南草津エリアは何が一番の売り なのかを将来のビジョンの中に入っ ていると良いのではないか。	—	【P15 目標③】 ◇「多様な交流が生まれる にぎわいのあるまち」を「 <u>充 実した都市空間・交通環 境</u> で多様な交流が生まれ るにぎわいのあるまち」に 修正しました。
3-2 A 委員	東山道公園のような魅力がある場所が あり、高齢者から小さな子どもまで各世 代の声が聞こえて来たりするなど南草 津エリアはとても良いまちである。新旧 がうまく合わさっているため、自然と近 代化がバランスよく共存していけば良い と思う。	—	
4-1 D 委員	将来像では「多様な交流によりにぎわ うまち」、目標③では「多様な交流が生ま れるにぎわいのあるまち」となっており、 交流とにぎわいの順番によって意味合 いが違ってくると思うので、統一してい ただきたい。	—	【P14 将来像】 ◇「 <u>～多様な交流によりに ぎわうまち</u> 」を「 <u>～多様な交 流が生まれるにぎわいの あるまち</u> 」に修正しました。

発言者	意見（要旨）	回答	ビジョンへの反映案
4-2 座長	にぎわいがあるって、その中に多様な交流があるというのが一般的な感じがする。 「多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち」という表現に統一することで問題がなければ、修正していただきたい。		
4-3 H委員	南草津にはにぎわうところがないというのが現状である。人が集まり混雑することがにぎわいではなく、交流することがにぎわいだと思う。		
5-1 K委員	将来像に南草津エリア感がない。南草津エリアには大きな企業があり産業と学問がうまく一つの地域に折り合っていたり、都市と豊かな自然があり、多様性に富んだ人がいたり、安心が担保されているところも見えるので、南草津エリアならではの目標になればよい。産業と学問がフォーカスされると、南草津エリアの特徴がとがってくるのではないかな。 また、SDGsは近年のまちづくりを語るうえで欠かせないキーワードになっている。	—	【P14、15 将来像・目標】 ◇目標①～③に南草津エリアの特徴を表現しました。 目標①：大学・企業・地域の活力が 目標②：豊かな環境と利便性を享受し安全・安心に 目標③：充実した都市空間・交通環境で ◇SDGsを踏まえ、目標①の「持続的に」や目標②の「住み続けられる」という表現を記載済。
5-2 座長	将来像については、下に隠れているところから押し上げて、ブラッシュアップできれば良い。	—	
6-1 D委員	交通に関してはきめ細かに見ていく必要があるため、まめバスの利用者数だけでなく運行本数も指標に入れるべきではないか。	◇運行本数ももちろんだが、どれだけのエリアをカバーしているのかという充足率のような指標もよいのではないかな。	【指標】 ◇「JR南草津駅乗降客数」、「公共交通の徒歩圏域の充足率」、「草津パーキングエリアの利用台数」などの指標を検討中。
6-2 E委員	課題として、交通結節機能の充実がある。将来を見据えると色々な交通手段が考えられる中で、指標がまめバスだけというのは寂しいのではないかな。	◇JR南草津駅の利用者数が増えられる指標の一つかと思う。 南草津駅周辺を中心拠点については、駅利用者の維持、利便性の向上がわかるような指標を考える。市民に分かりやすい指標を、JR西日本さんにご相談させていただきながら検討したい。	
6-3 E委員	連携できる場所では鉄道からの二次交通へのアクセスとして5～10分以内に繋がっているということが売りになる。		
6-4 座長	それぞれが独立して利用者を増やせば良いというものではなく、接続が大事ということは入れたい。		
6-5 B委員	乗ってから渋滞で動かないとなると便利とは言えない。例えば、立命館大学までの標準到着時間等があると、より利便性が実感しやすい。	◇社会実験をしている理由の一つは駅前の渋滞対策である。まだ詳細な分析をしていないが、信号がボトルネックになっているようだ。しかし、歩行者の安全のためには一定の信号がなければならず、議論を進めていかなければいけない。 ◇利便性を高めなければ乗っていただけなので、社会実験の結果を踏まえ、施策を検討したい。	

発言者	意見（要旨）	回答	ビジョンへの反映案
6-6 座長	自家用車の利用数減少も重要な指標だが、その前に公共交通の整備をしてほしいというふうになる。指標は多すぎるとわかりづらくなると思うので、塩梅が難しい。	◇代表的なものを指標として決めたい。	
6-7 D 委員	草津IC周辺のにぎわいということも議論していたので、ICあるいはPAの利用台数も重要な指標になるかと思うので、新たに加えることを提案する。	◇NEXCO西日本に確認する必要があるため、検討する。 ◇それぞれの拠点のにぎわいに係わる指標を設定することについても検討する。	
6-8 座長	駅前でたくさんの人が滞留し、生活空間になっているということが図れる指標があると良い。 UDCBKの利用者数とあるが、利用については買い物のみではなく、生活の中で人が滞留するという風景をつくるのが大事なのではないか。	—	
7 B 委員	「まちに誇れるもの（ブランド）がある」というアウトカム指標があるが、まちに誇れるものとは何か。	◇第6次草津市総合計画で実施した市民意向調査項目を用いた指標であり、まちに誇れるものとは価値観によって異なるため特に限定したものではなく、市民にとって草津市が良いと思えるようなブランドがあるかどうかというアンケートである。アウトカム指標なので直接施策と結びつけるのは難しいが、市に誇れるものがあると思える市民が増えることは、草津市のブランド力が上がっていることであると捉え指標として設定している。	—
8-1 G 委員	目標③の「多様な交流～」と、基本方針②の「世代を超えた交流の創造」がリンクしていないのは何故か。	◇目標と基本方針が繋がっていないように見えるのは、施策例が固まっていなかったためだと思う。一つの目標に一つの基本方針がリンクしているのが分かりやすいが、施策例を固めながらわかりやすいリンクを検討する。	【P16、17 基本方針】 ◇以下のように、内容別に、また目標と1対1で対応するように3つの基本方針に再整理しました。 「基本方針① 大学や企業等の立地集積を生かした産官学連携による魅力あるまちづくりの推進」 「基本方針② 豊かな地域資源を生かした安全・で快適な住環境の形成と地域主体によるまちづくりの推進」 「基本方針③ JR 南草津駅周辺やびわこ文化都市公園周辺における拠点性の強化と適切な都市機能の配置の推進」 【P28、29 施策の体系】 ◇目標、基本方針、施策、ゾーニングの関係性を再整理しました。
8-2 G 委員	目標に対して複数の基本方針となるのは問題ないが、基本方針と施策は一致すべきである。基本方針①の「大学や企業等の～人材活用」と、基本方針②の「多世代～交流」はどちらも交流の話なので、交流としてひとつの基本方針にまとめてはどうか。		
8-3 G 委員	基本方針③は滋賀県南部エリア、基本方針⑤は南草津駅周辺と場所を限定しているが、それ以外の基本方針は場所を限定していない。場所を限定しているものとしていないものが一緒になっているからわかりづらいのではないか。基本方針は交流、防災、地域資源のように内容に着目してまとめ、ゾーニング案のところでは場所性をカバーすれば良い。		

【施策案について】 ※基本方針番号と施策記号は組み換え後のもの

発言者	意見（要旨）	回答	対応・検討の状況
9 座長	ビジョンは最終の施策のみとするのか、施策を推進していく検討チームやプロジェクトの発起についても書けるのか。	◇施策については、～の推進・検討という言葉になるかと思うが、こういうことをしっかりやっていくということを書くのが大前提である。	—
10-1 F 委員	大学の情報掲示板にボランティア募集などが出ているが、参加者はなかなか増えない。個人に声をかけて仲間を増やすシステムがあれば、今日まで目を向けてこなかった学生も参加しやすくなるのではないか。	◇企業と学生が何かコラボレーションできるような仕組みも非常に大事だと思う。地域のにぎわい、交流といった点で、大学がまちにあるところを抑えていかなければいけないと思う。学生と地域がつながるような仕組みについて懇話会の中で意見をいただいで検討していきたい。	【P22 施策①-ウ】 ◇施策内容「・JR南草津駅周辺や地域まちづくりセンターなどにおける～」を「・JR南草津駅周辺や地域まちづくりセンター、 <u>教育機関</u> などにおける～」に修正しました。 ◇施策内容に「 <u>・大学・企業等と地域や教育機関等との連携を図る窓口機能の強化</u> 」を追加しました。
10-2 座長	我々は「整備」として施策例を見てしまうが、人をつなげる仕組みをつくるというソフト施策の考え方もあるのではないか。地域住民と学生をつなげる組織が今ないのであれば、つくると良いのではないか。		
10-3 F 委員	今まで南草津エリアで通学し学ぶことに不便を感じてこなかったのは、地域にバックアップされている環境があったからだ気づいた。それは続けていただきたいし、学生はそういうことに無自覚なので、地域は学生との交流を求めている協力しようとしているということをアピールしていただければ学生の心に刺さる。		
10-4 J 委員	子育てする上で考えなければならないのは教育である。小学校や中学校が立命館大学や色々な企業から学べる、交流できるような仕組みづくりがあれば南草津エリアに住んで良かったと思える要素になる。	—	
10-5 A 委員	立命館大学の学生がまちの推進を研究テーマにするなどして、学生の研究成果とまちづくりがうまく合体して進んでいければ良い。	—	
11 座長	「基本方針① 大学や企業等の立地集積を活かした人材活用と空間形成」の主な施策内容に、人をつなげていこうというようなことが書いてあるが、南草津駅前のにぎわいをつなげることも考えられるので、ゾーニング案では学術・研究複合連携の拠点だけでなく、南草津駅前の「中心拠点」にも○が付くのではないか。	—	【P22 施策①-ウ】 ◇対象のゾーニングに「中心拠点」および「東の拠点」を追加しました。
12 I 委員	志津南学区では朝の挨拶運動などで立命館大学の学生にボランティアで来ていただいていたが、コロナウイルスが流行る前から疎遠になってしまっている。大切な地域のつながりなので、どこと連携したらよいのか確認していただきたい。	◇草津未来研究所が市の窓口となって立命館大学と連携しているので、後ほどご連絡させていただく。	—
13 G 委員	南草津エリアには市街化調整区域はそれほどないという認識でいたが、「特定区域における計画的な土地利用の検討」とは具体的に何なのか教えていただきたい。	◇湖南幹線沿いの特定区域の一部では、市街化編入を進めている。老上西学区の浜街道沿道や老上学区でも特定区域について話し合いを始めたところである。市街化調整区域の地区計画制度や都市	—

発言者	意見（要旨）	回答	対応・検討の状況
		計画法 34 条 11 号特定区域を使いながら、まちの活力の維持・創出を図りたい。	
14 H 委員	南草津には老上学区の前方向後円墳などの歴史もあるため、それも含めてまちづくりを考えていただきたい。	—	【P24 施策②-キ】 ◇「歴史・文化資源の活用促進」を記載済。
15 D 委員	私の学区では草津市版地域再生計画のまちづくりプランの検討に着手したところであり、今後懇話会に具体的な施策例の提案ができた場合は反映していただきたい。 南草津エリアは、地域に残る遺産が存在したり、琵琶湖に接している地域なので、そのような視点から新たな施策例を提案できればと思う。	—	—
16 A 委員	「南草津駅にピントを合わせ、地元農産物販売所の設置をフェリエの活用を含めて検討すべきでないか」という前回の意見について、JA や地域まちづくりセンターが朝市などを実施しているという回答があったが、JA や地域まちづくりセンターと南草津駅前では交流する対象が違うように思う。南草津駅に拠点があることが大事なので、例えばフェリエに地元農産物などを使った料理を食べられるスペースを設置し、地元農産物を扱っている様々な方とワークショップなどができれば、地元産業への新しい顧客を開拓でき、その顧客をJA や地域まちづくりセンターへつなぐ窓口のような役割になりえる。 「田園環境の保全と農業資源を活かした交流促進」は、「琵琶湖辺自然・文化振興」の拠点に該当しているが、「中心拠点」のにぎわいにもつなげられるのではないか。	◇フェリエは指定管理者が運営しているので、指定管理者との調整が必要だが、議論していきたい。	【P25 施策②-コ】 ◇対象のゾーニングに「中心拠点」を追加しました。
17-1 座長	南草津駅前東口の課題はすぐどうにかなるものでないが、西口はソフト的なものも含めて今からでも何かできる可能性が高い場所だと改めて思った。南草津駅を降りて、どんなまちかがわかるようにしていくという可能性もある。	—	【P25 施策③-イ】 ◇施策内容に「東山道記念公園における第3次草津市みどりの基本計画に基づいた Park-PFI の導入による民間活力の活用の検討」と「東山道記念公園と連携したJR南草津駅西口ロータリーにおける民間活力の活用の検討」を記載済。
17-2 副座長	仮設のイベント開催という意見もあったが、遊びの感覚もあり防災拠点を含めた駅であった方が、みなさんが滞留しやすい空間になる。	—	
18-1 D 委員	「JR南草津駅周辺におけるウォーカブルなまちづくりの推進」という施策に、「歩行者や自転車における～各学区へのアクセス性の向上」とあるが、これまでアクセス性の向上のみならず安全性の確保という議論をしてきたので、「安全性の確保」という表現を加えるべきである。 この施策はゾーニング案の「中心拠点」にのみ○が付いているが、アクセス性の向上や	◇中心市街地活性化基本計画のキーポイントとして挙げている、歩いて楽しくなるような、徒歩や自転車での駅へのアクセス性を高めるという意味で書いている。 南草津駅の西側ではプリムタウンの整備が進み、駅	【P26 施策③-ウ】 ◇施策内容の「～ <u>アクセ</u> ス性の向上」を「～ <u>ア</u> クセス性・ <u>安全</u> 性の向上」に修正しました。 ◇対象のゾーニングに「連携交流」を追加しました。

発言者	意見（要旨）	回答	対応・検討の状況
	安全性の確保は全ての領域にまたがる話なので、「中心拠点」だけではなく「エリア内の連携強化」にも○を付けるべきだと思う。	の利用者増が見込まれるため、徒歩や自転車で来てもらえる仕組みづくりを議論し、駅の利便性を高めたいと思っている。その前提に歩行者や自転車の安全が大事なので、しっかりと考えていきたい。	
18-2 副座長	南草津駅に向かって歩いていけるバリアフリーの推進は大切なことだと思うので、どこまでが範囲かということも考えていかなければいけない。住宅から南草津駅への道は狭隘なところが多い。インフラを整備することでまちは活性化に向けた大きな動きとなるので、整備するべきだと思う。	—	
19 座長	「自転車ネットワーク計画の推進」も「エリア内の連携強化」だけではなく、「中心拠点」にも関わる。	—	【P26 施策③-オ】 ◇対象のゾーニングに「中心拠点」を追加しました。
20 委員	坂道を自転車が降りていくが、歩道と自転車レーンと車道が分離されておらず非常に危ないため、道路整備も含めて検討する必要があるのではないかな。	◇ハード整備は時間がかかる部分があると思っている。例えば、志津南学区から下っていくのは比較的歩きやすいと思うので、上りはバスを使っていたりなど工夫し、ハードとソフトをうまく活かせるように検討していきたい。	【P26 施策③-オ】 ◇施策内容に「 <u>自転車ネットワーク計画による連続性のある安全・安心な自転車走行空間の整備</u> 」を追加しました。
21 副座長	ワークショップの意見でデジタルサイネージというものがあがっていたが、にぎわいなどまちを活性化していくひとつの外観的なあり方だと思う。また、遊びの感覚もあり防災拠点を含めた駅であった方が、みなさんが滞留しやすい空間になるのではないかな。		【P26 施策③-カ】 ◇施策内容に「・JR南草津駅周辺における、南草津エリアの顔となるまちなみ形成やイメージづくりと、南草津エリアの情報発信機能の強化」を記載済。
22 副座長	高齢化が進み、公共交通機関がなければ暮らすことができなくなるので、道路整備と併せて進めるべきである。		【P27 施策③-コ】 ◇「草津市地域公共交通網形成計画に基づく関係事業者と連携した円滑なバス交通ネットワークの確保」を記載済。